

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
B-141	22-405	京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座 鶴身孝介 独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター 松下幸生
<b>題名（原題／訳）</b>		
Differential brain responses to alcohol-related and natural rewards are associated with alcohol use and problems: Evidence for reward dysregulation アルコール関連報酬と自然報酬に対する脳の反応の違いは、アルコール使用や問題と関連している。報酬制御障害のエビデンス		
<b>執筆者</b>		
Jorge S. Martins, Keanan J. Joyner, Denis M. McCarthy, David H. Morris, Christopher J. Patrick, Bruce D. Bartholow		
<b>掲載誌</b>		
Addict Biol. 2022 Mar;27(2):e13118. doi: 10.1111/adb.13118.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
アルコール手がかり刺激、事象関連電位、報酬制御		34877771
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b>薬物の使用で、薬物関連の報酬評価が上がり、自然報酬の価値が下がる（すなわち、報酬制御障害）ことが複数の理論的観点から仮定されている。最近の研究では、薬物関連と非薬物関連の報酬評価の比較バランスが、薬物誤用や依存の強力な決定要因であることが示唆されている。そこで問題飲酒の神経生物学的指標として、視覚的アルコール手がかり刺激と自然報酬手がかり刺激によって生じる神経生理学的反応（事象関連電位（ERP）の P3 成分で指標化）の差異を検討した。</p> <p><b>方法：</b>依存症ではない若年成人飲酒者（N = 143、18-30 歳）が、アルコール使用と問題を評価する質問票に回答し、ERP を記録しながらアルコール手がかり刺激（アルコール飲料の写真）、高刺激性自然報酬手がかり刺激（性的なものや冒険シーン）、非アルコール飲料の手がかり刺激、中立シーン（例：家庭用品）を閲覧した。</p> <p><b>結果：</b>アルコール手がかり刺激と自然報酬手がかり刺激に対する P3-ERP 反応性を別々に検討したところ、アルコールの使用や問題との関連は弱かった。しかし、2 種類の手がかりに対する P3 反応の差（すなわち、報酬制御障害 P3）は、アルコール使用および問題のすべての指標と一貫した強固な関連を示し、高リスクの飲酒者と低リスクの飲酒者を区別することができた。</p> <p><b>結論：</b>本結果は、自然報酬活動に対するアルコールのインセンティブ・モチベーションの価値の差が、物質誤用や依存のリスク上昇と関連するという考えを支持し、この報酬評価の差を示す新しい神経生理学的指標（報酬制御障害 P3）を強調するものであった。</p>		